



2023.7.4

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

救命行動は落ち着いて

1日の土曜日、職員全員で普通救命講習会を受けました。これは瀬戸市消防署から職員の方が幼稚園に来ていただき、救急時にどのように対応するのかを学ぶものです。いざという時のために幼稚園にはAEDが設置してあるので、幼児に何かあった場合のAEDの取扱い方や、道で倒れている人に遭遇した時にどのように救命行動をするのかを教えていただきました。私も参加しました。

最初に映像で説明を受け、その後先生たち全員が交代で実習を行いました。今回のダミー人形は大人とは違い、乳児と幼児の少し小さめのものです。発見したところから全て声を出しながら、救命行動を進めていきます。座って見ている先生に、「119番通報を」「AEDを持って来てください」と指示し、その間胸の中心をめがけてテンポよく胸骨圧迫を行います。大人は両手でおこないますが、乳児は中指と薬指の2本で、幼児は片手で行います。

AEDが到着したら、スイッチを入れ機械の誘導に従って操作を行います。電気ショックが必要かどうか機械が判断し教えてくれます。必要ない場合は、ひたすら胸骨圧迫を続けます。電気ショックを行う場合は、その人に触れないように離れて、電流が流れたらまたすぐに胸骨圧迫を行うと教えて頂きました。



次に乳児の気道異物の除去方法を学びました。背部叩打法と胸部突き上げ法の二つがありますが、現在では背部叩打法が一般的だそうです。救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、片方の手で乳児の顎をしっかりと持ち、頭部が低くなるような姿勢にします。もう一方の手のひらの付け根で、背部を力強く数回連続してたたきます。これでほとんど詰まったものが出てくるそうです。(別紙をご参照ください。)

とにかく子どもたちに何か起きた時に、パニックにならないように冷静に対応することが大切と学びました。幼稚園内で起きた時に、先生たち同士で協力して救急活動を行うこと。そして対応ができなかったら躊躇することなく119番通報をしてくださいと、消防署の方からおっしゃっていただきました。子どもたちの様子を常に観察、把握しておくことを職員同士で再確認しました。

子どもたちの対応力は驚き！

ディズニー映画の「リトルマーメイド」の実写版が製作と発表され、アリエル役の俳優が登場すると、世界中で賛否両論が沸き上がりました。しかし予告を見たアフリカ系の少女たちが「私みたい！」と歓喜する数々の動画が投稿・拡散され、「アナと雪の女王」を抜いて大ヒットとなりました。

多様性(ダイバーシティ)は、人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教等の違い等で差別することなく、お互いを認め合う社会を形成していこうというものです。教育の現場でも同じで、幼稚園でも様々な国のお子さんの入園を受け入れています。職員の語学力不足でご迷惑をおかけしておりますが、子どもたちの対応力のスピードに驚かされています。入園した頃はほとんど日本語が話せなくても、あっという間に日本語を覚え、他の子どもたちとコミュニケーションが取れるようになるのです。私もつたない英語で話しかけますが、通じているのかどうか？

実は私の三女の嫁が外国人で、我が家も多様性社会です。九州に在住しており、孫は家庭では英語、保育園では日本語を話しているとの事。時々、ラインのビデオ電話で話しますが、私たちには「ジーじ、ばーば。」と日本語で話し、海外のご祖母様には「グランファ、グランマ。」と英語だそう。我が孫ながらうらやましい！多様性に向けて、孫に英語を習おうかなと思っています。

